

「事故防止及び事故発生時対応マニュアル～基礎編～」の紹介

特徴1 イラストを多く取り入れ、見開きでそのまま活用できるページレイアウト

特徴2 重大事故が起こりやすい場面ごとに **リスク** と **基本的な考え方を** わかりやすく記載

特徴3 保育の場面ごとに **チェックポイント** を記載し、一つひとつ、**確認することで安全確認**ができる

まず確認！ 睡眠中も保育中

睡眠時安全チェックポイント

睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうる』かも...

「子どもの安全を最優先とする」意識の徹底

睡眠状況の見守り

保育準備の制作や会議等

子どもの安全

- 睡眠中も保育である
- 睡眠中のリスクの共有
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等
- 見守り(観察・記録)に専念できる体制づくり
- 緊急体制の整備
 - ➡ 心肺蘇生法・AEDの操作研修の実施
 - ➡ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施

3 睡眠環境等の確認

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく

- 敷布団は固めのものか
- 掛け布団は軽いものか
- コットの上のマット等は固定されているか
- 枕は使用していないか
- 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

適宜換気を行っているか

- 体調等いつもと違う様子はないか
- 水分補給はできているか
- 口の中にも何も入っていないか

よだれかけは、はずしているか

周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか

おもちゃ等を持っていないか

すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか

タオルがまっすぐ敷ける

寝かしている時から仰向けにしているか

〈温度・湿度の目安〉

	温度	湿度
冬	20～23℃	約60%
夏	26～28℃	約60%

- 室温湿度計は子どもが生活する高さ(安全に確認しながら)に設置する
- 冷房は床面の温度が2～3℃低い場合があるので、睡眠時は留意する

睡眠中は床暖房やホットカーベットを使用しない(暖めすぎの防止)

1 入園時の確認

- 入園児の生育歴等を把握する
- 配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する
- SIDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する
- 子どもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)
- 子どもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る

2 睡眠中の観察

- 特に、預かり初期は注意深い見守りを！ -

- 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
- 0 歳児は5分毎
1 歳児以上は10分毎] に観察する

項目

- 名前の確認・顔色・唇の色
- 呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き)
- 呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり)
- 熱感(体に触れて体温・発汗等)
- 体位

- その都度、睡眠時観察表に記録する

4

5